

三島市新規最終処分場候補地選定（概要版）

●最終処分場の現状

本市の最終処分場は、清掃センターの敷地内に第1埋立地、第2埋立地、第3埋立地の3か所がある。第1埋立地及び第2埋立地は既に埋立が終了し、現在は、第3埋立地に焼却灰と不燃残渣を埋め立てている。また、第3埋立地の残容量がひっ迫していることから、延命化のために2010年から焼却灰と不燃残渣の一部を外部搬出している。

このような状況を踏まえ、次期最終処分場の候補地を選定するために、2012年から庁内組織として「三島市新規最終処分場用地検討会」を設置し、2015年に最終処分場の候補地が徳倉地区と賀茂之洞地区の2か所に絞られた。2019年に学識者や市民の代表者から構成される「三島市新規最終処分場候補地選定委員会」を設置し、賀茂之洞地区を建設に適した候補地とする答申書が提出された。

候補地の決定については、庁議において、選定委員会からの答申内容を踏まえ、総合的に検討を行った結果、賀茂之洞地区を最終建設候補地として決定した。

●候補地選定の経緯

2012年12月26日	三島市新規最終処分場用地検討会設置	
2013年2月8日	第1回三島市新規最終処分場用地検討会	候補地10か所
2013年8月26日	第2回三島市新規最終処分場用地検討会	候補地6か所に選定
2013年10月9日	第3回三島市新規最終処分場用地検討会	候補地4か所に選定
2014年6月4日	第4回三島市新規最終処分場用地検討会	4か所の基礎調査業務委託内容説明
2014年8月6日	最終処分場候補地容量等基礎調査業務委託実施	4か所の基礎調査業務委託実施
2015年2月12日	第5回三島市新規最終処分場用地検討会	候補地2か所に選定
2016年1月27日	最終処分場候補地調査業務委託実施「賀茂之洞地区」	
2016年8月10日	最終処分場候補地調査業務委託実施「徳倉地区」	
2018年8月2日	三島市新規最終処分場候補地選定業務委託実施	
2019年2月1日	第1回三島市新規最終処分場候補地選定委員会	
2019年4月23日	第2回三島市新規最終処分場候補地選定委員会	
2019年7月5日	第3回三島市新規最終処分場候補地選定委員会	
2019年8月2日	第4回三島市新規最終処分場候補地選定委員会	候補地1か所に選定
2019年9月24日	三島市新規最終処分場候補地選定委員会より答申「賀茂之洞地区」	
2019年11月1日	パブリック・コメント実施	
2019年12月23日	庁議により最終建設候補地決定「賀茂之洞地区」	

●候補地選定の基本方針

- ①せせらぎを大切にする三島市の特征から、水環境への負荷を最小限に抑える候補地
- ②人口減少社会の中、より効率的、経済的な候補地
- ③自然環境変化の抑制及び処分場用地確保の困難さから、長期間利用可能な候補地

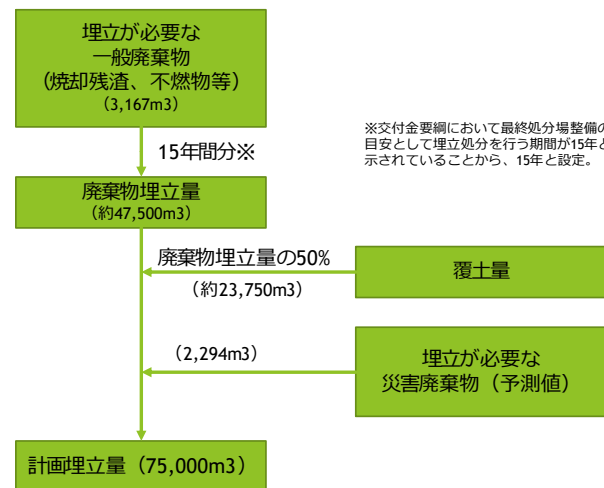
●候補地の比較方法

基本方針及び項目に則って優先順位をつける。

大項目	小項目
立地条件	埋立効率
	埋立容量
	覆土用土の入手 搬入道路 跡地利用計画(平坦地/埋立地)
自然条件	地質状況 動植物
	土地利用
社会条件	交通量の変化 文化財 住居
	環境条件
経済条件	浸出水処理水の放流 概算建設費
	処分場の運営管理 概算維持管理費

●新規処分場の埋立容量

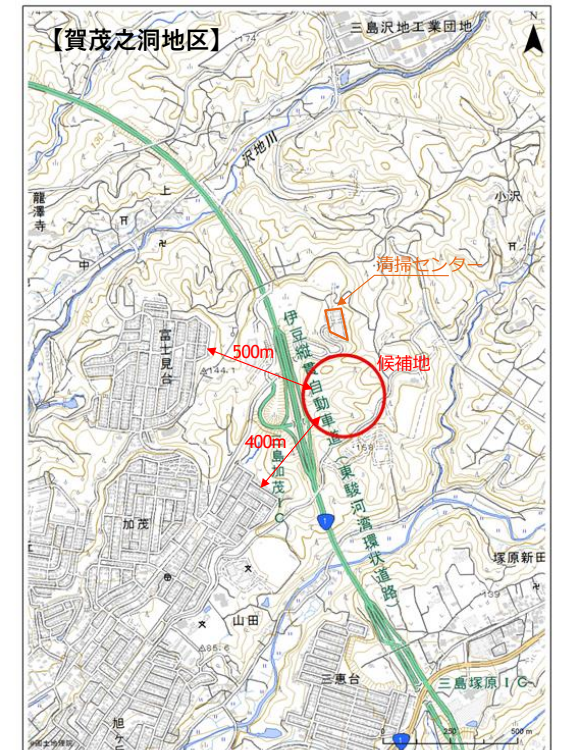
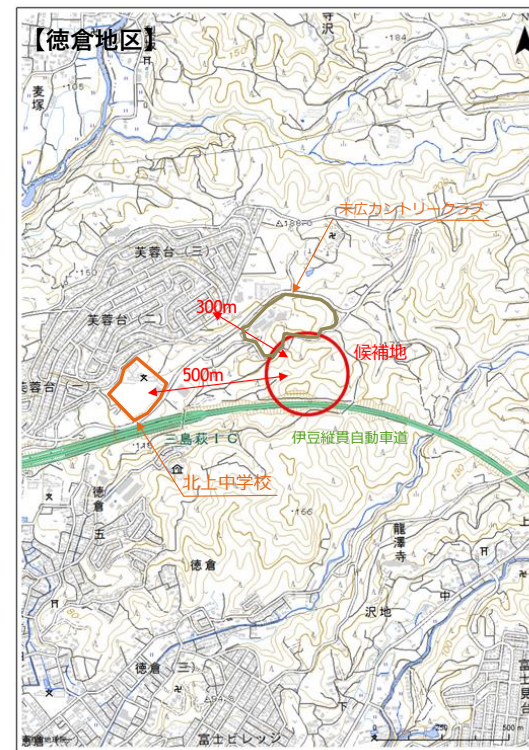
過去の埋立実績及び災害廃棄物への対応を踏まえて、約75,000m³/15年とする。



●候補地の調査結果

<候補地の地理的側面>

地形図等を用いて、両候補地の概略地形特性を把握。土地利用状況や水系、法規制、道路網との関係、周辺施設などの概要を整理。



<候補地の環境的側面>

(1) 自然環境の概況

両候補地とも、周辺樹林地との連続性はあるが、住宅地、ゴルフ場、伊豆縦貫自動車道等に囲まれた樹林地で、自然環境に大きな違いはない。

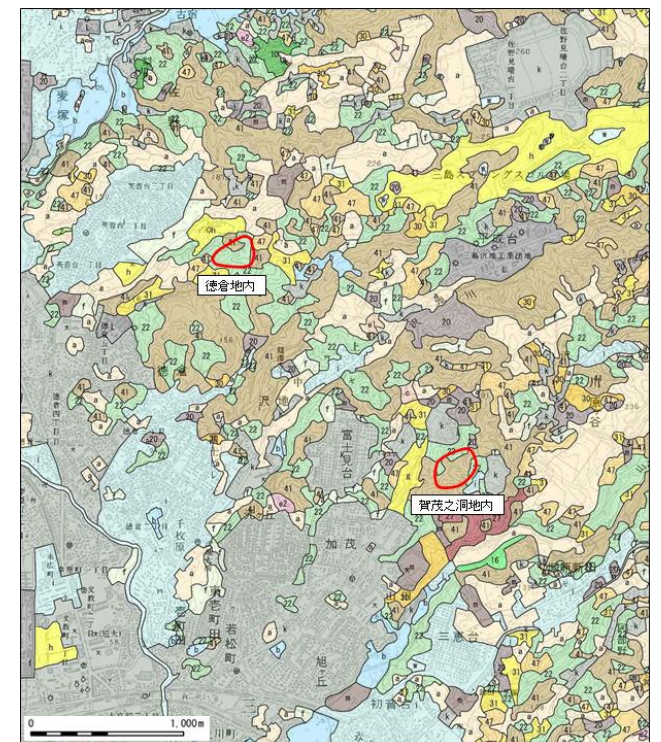
(2) 重要な動植物

既存の文献により、両候補地周辺における重要な動植物の存在の確認を実施。

- ▶ 三島市全域、山田川流域、沢地川流域で実施された現地調査では、動物47種、植物18種の重要種が確認
- ▶ 文献調査では、動物93種、植物60種の重要種が確認

- ▶ 両候補地において実施された現地調査はなく、重要種の確認記録はないが、両候補地は沢地を含む樹林地であり、今後の現地調査等により重要種が見つかる可能性がある

- ▶ 今後、候補地で重要種が見つかった場合は移植等を検討・実施。



【現存植生図】

<候補地の地質的側面>

(1) 広域地形地質概要

- ◆ 両候補地は箱根火山の南西山麓斜面に位置し、地質は両者とも流紋岩質の火砕流堆積物、ならびに安山岩・玄武岩質の溶岩からなる。
- ◆ 候補地から最も近い活断層は、候補地の東南東約10kmに位置する北伊豆断層帯であり、候補地とは接触しない。

(2) 水文地質踏査



【徳倉地区現地踏査状況】

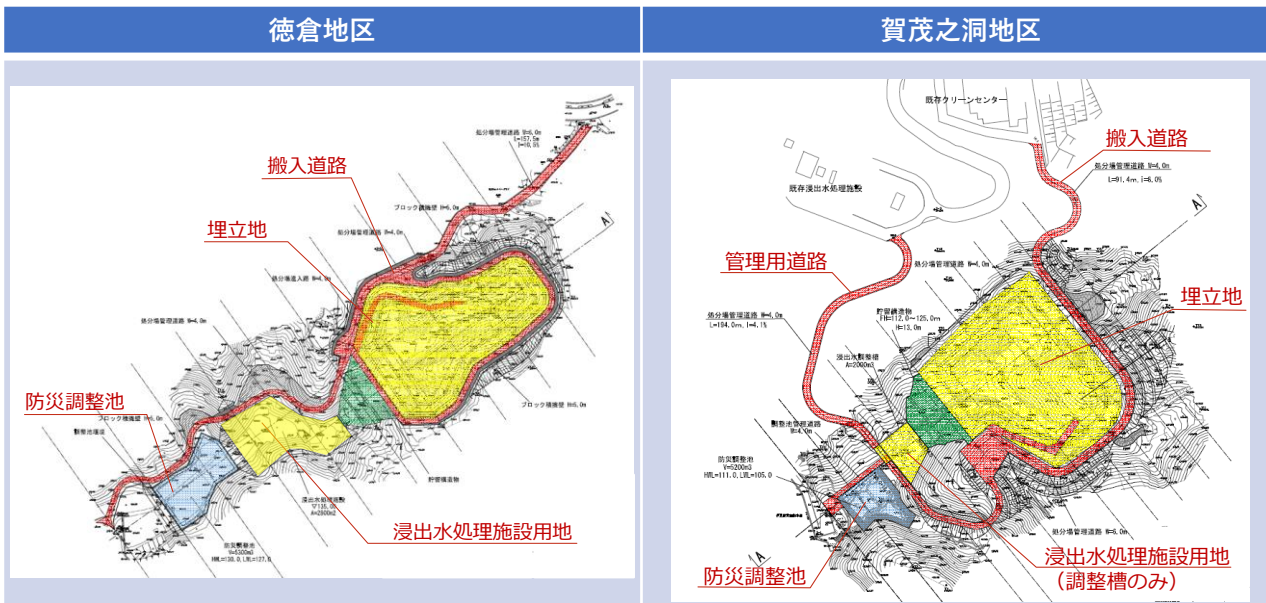


【賀茂之洞地区現地踏査状況】

- ✓ 地質構成、湧水する地層の位置、水質は、**両地区とも概ね同様**である。
- ✓ 湧水量と湧水箇所数は**徳倉地区**のほうが多く、湧水処理に手間を要する。
- ✓ **徳倉地区**は、谷下流で沢が伏流し流路自体が無くなるため、表流水の排水先を確保する必要がある。
- ✓ **賀茂之洞地区**は、斜面に崩壊の痕跡がやや多いため、地山表面が不安定な可能性がある。

<候補地の経済的側面>

●施設配置案



●概算工事費（建設工事費＋維持管理費（35年間））

項目	詳細	徳倉地区	賀茂之洞地区
(1)建設工事費	本体土木工事、浸出水処理施設工事、事業用地費	1,955,000千円	1,749,750千円
(2)維持管理費（35年間）	運営管理費、下水道放流、モニタリング費	1,818,900千円	1,829,614千円
合計		3,773,900千円	3,579,364千円

●候補地の比較結果

●項目ごとの評価

大項目	小項目	徳倉地区	賀茂之洞地区
立地条件	埋立効率	○	○
	埋立容量	○	○
	覆土用土の入手	○	○
	搬入道路	△	○
	跡地利用計画(平坦地/埋立地)	◎	◎
自然条件	地質状況	○	○
	動植物	○	○
社会条件	土地利用	△	△
	交通量の変化	○	◎
	文化財	△	△
環境条件	住居	○	○
	浸出水処理水の放流	○	◎
経済条件	概算建設費	○	◎
	処分場の運営管理	○	◎
	概算維持管理費	○	○

【凡例】◎：適正度が高い、○：適正度が中程度、△：適正度が低い

●基本方針に対する評価

	徳倉地区	賀茂之洞地区
①水環境への負荷を最小限に抑える	○：浸出水処理水を公共水域へ放流するため、周辺環境に影響を与える恐れがある。	◎：既存の浸出水処理施設を使って水処理が行える（公共下水へ放流）ことから、周辺環境に影響はない。
②効率的、経済的な施設案	○：ライフサイクルコストは賀茂之洞地区に比べて高価となる。	◎：ライフサイクルコストは徳倉地区に比べて安価となる。
③長期間利用可能な候補地	○：15年間分の容量確保は可能。一方でこれ以上の容量確保は困難。	○：15年間分の容量確保は可能。一方でこれ以上の容量確保は困難。

●総合評価

	徳倉地区	賀茂之洞地区
総合評価	<p>【立地特性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・搬入道路の勾配が急勾配となり、搬入に支障をきたす恐れがある。 ・候補地においてこれ以上の容量確保は困難。 	<p>【立地特性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立地特性として、搬入は清掃センターから管理用道路を通じて直接行われる。 ・候補地においてこれ以上の容量確保は困難。
	<p>【環境特性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・搬入車両が新たに公道を走るため、周辺環境に影響を与える可能性がある。 ・浸出水処理水を公共水域へ放流するため、周辺環境に影響を与える恐れがある。 	<p>【環境特性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・搬入車両が公道を走らないため一般車両に影響がない。 ・既存の浸出水処理施設を使って水処理が行える（公共下水へ放流）ことから、周辺環境に影響はない。
	<p>【経済性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフサイクルコストは賀茂之洞地区に比べて高価となる。 	<p>【経済性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフサイクルコストは徳倉地区に比べて安価となる。

「立地特性」としては、容量確保の点からは両地区とも同程度であるが、搬入の効率性からは賀茂之洞地区が優位である。「環境特性」としては、賀茂之洞地区では既存の浸出水処理施設を利用することで水環境への影響に変化がないこと、および搬入車両が公道を走らないため周辺環境に影響を与えないことから、賀茂之洞地区が優位である。「経済性」ではライフサイクルコストとして賀茂之洞地区が優位である。

よって、総合評価として周辺環境に影響が少ない「賀茂之洞地区」を次期最終処分場の建設に適した候補地に選定する。